
「血管構築を基にした内頸動脈内膜剥離術のシャント挿入を予測する スコアリングシステムの構築」に関するお知らせ

このたび、当院で診察を行った患者さんの情報を用いた以下の研究を実施いたします。
本研究は、埼玉医科大学国際医療センター臨床研究 IRB の承認を得て、病院長による許可のもと行うものです。
本研究では、患者さんに追加でご負担をお願いすることはありませんが、カルテ情報等を使用することに賛成でない場合、あるいはご質問がある場合は、患者さんご自身でもその代理人の方でも結構ですので、問い合わせ先までお申し出ください。お申し出いただいても不利益になることは一切ありません。

研究の概要について

1. 研究の対象となる方

2012年4月1日～2024年3月31日に当院で内頸動脈内膜剥離術を受けた内頸動脈狭窄症の患者さんを対象としております。

2. 研究の目的

内頸動脈内膜剥離術は内頸動脈狭窄症に対する標準的な手術治療です。内膜の剥離操作を行う間内頸動脈から頭蓋内への血流を遮断する必要があるため、この術中遮断による脳梗塞を予防するために、内シャントを挿入する場合があります。内シャントの挿入率は術者や施設基準によって異なりますが、術中のモニタリング所見を基に挿入の要否が決定されることがほとんどです。内シャントの挿入による動脈解離や動脈閉塞の合併症が報告されており、術中に急遽決定される内シャント挿入は安全性の観点から避けられるべきだと考えています。手術の安全性を高めるため、内シャント挿入の要否を術前に予測できるスコアリングシステムを構築することを研究の目的としています。

3. 研究期間

病院長の許可後～2027年12月31日

4. 利用または提供の開始予定日

研究実施許可後から、約1か月程度。

開始予定日以降も研究への利用停止などのお申し出に対応いたします。

研究に用いる試料・情報について

1. 試料・情報の内容

埼玉医科大学国際医療センター脳卒中外科で入院治療を行った患者さんの診療記録、手術記録から収集した年齢や性別、既往歴などの背景、内頸動脈内膜剥離術の合併症、術前画像所見における側副血行路の発達程度。

※この研究で得られた患者さんの情報は、埼玉医科大学国際医療センターにおいて、研究責任者である武 裕士郎が、個人が特定できないように加工した上で管理いたします。そのため、患者さんのプライバシーが侵害される心配はありません。

2. 試料・情報の取得方法

通常の診療過程で得られた患者さんの検査データおよび診療記録等を用います。

3. 試料・情報を利用する者（研究実施機関）

研究責任者 埼玉医科大学国際医療センター脳卒中外科 武 裕士郎

4. 試料・情報の管理責任者

埼玉医科大学国際医療センター 病院長 佐伯 俊昭

お問い合わせについて

ご自身のカルテ情報等を利用されたくない場合、あるいはご質問がある場合には、以下の連絡先までご連絡ください。

利用されたくない旨のご連絡をいただいた場合は、研究に用いられることはありません。

ただし、ご連絡いただいた時点で、既に研究結果が論文などで公表されていた場合、結果などを廃棄することができないことがありますので、ご了承ください。

埼玉医科大学国際医療センター 脳卒中外科 武 裕士郎

住所：〒350-1298 埼玉県日高市山根 1397-1

電話：042-984-3678（土日祝日を除く 8：30～17：30）

○研究課題名：

血管構築を基にした内頸動脈内膜剥離術のシャント挿入を予測するスコアリングシステムの構築

○研究責任者：埼玉医科大学国際医療センター脳卒中外科 武 裕士郎